

# バス停からの 小さな旅



## 16 「下米田交流センター(むくの木・そうきち線)」から、「西脇稻荷塚古墳」を訪ねる

下米田交流センターでバスを降り、下米田小学校の正門前の道を約2百mほど北へ向かうと、周囲には、水をたたえて涼しい風が抜ける水田が広がっています。

江戸時代の終わりから明治時代初めに作られた地図を見ても、当時からあまり変わらない風景だったことが分かります。

そんな風景の中、東海環状自動車道(国道475号線)の北隣に、一つの小高い丘があります。「西脇稻荷塚古墳」という古墳です。記録に残る最大径は約30m、高さは4mにもおよびます。

この古墳は、古墳時代前期末頃(4世紀終わり)から中期(5世紀)に造られた円墳とされています。古墳の頂には、3〜4段の川原石積みのりかきの基壇に役行者の石造物が祭られ、そばに高さ70cmほどの立石が2基、据えられています。

ここに古墳時代の人が古墳を造り、その後の人々が守り伝え、新たな信仰のよりどころとしてきた場所であることが感じられます。

【参考】『美濃加茂市史 通史編』

文化の森 ☎28・1110



▲津田左右吉博士記念館



### 今回乗車したバス

行き むくの木・

そうきち線右回り3便

帰り むくの木・

そうきち線左回り4便

09時15分 美濃太田駅南口  
09時51分 下米田交流センター

バスを降り、国道のそばにある古墳を見学。道に戻り、小学校脇にある津田左右吉博士記念館で津田博士の展示を鑑賞。

11時33分

下米田交流センター  
12時08分 美濃太田駅南口



▲南西から見た西脇稻荷塚古墳